

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

協同組合いわき材加工センター勿来工場における
木材乾燥用重油ボイラーから木屑焚きボイラーへ
の転換による排出削減事業

排出削減事業者名：協同組合いわき材加工センター

排出削減事業共同実施者名：東京電力株式会社

その他関連事業者名：

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4	国内クレジット認証要件の確認	2
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3	排出削減活動期間	3
3.1	プロジェクト開始日	3
3.2	モニタリング対象期間	3
4	温室効果ガス排出削減量	3
4.1	採用した排出削減方法論の情報	3
4.2	活動量	3
4.2.1	活動量・原単位	3
4.2.2	活動量の採用根拠	3
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	3
5	モニタリング対象指標	4
6	モニタリング体制	5
6.2	モニタリング対象指標の QA/QC	5
7	排出削減量の計算	6
7.1	事業実施後排出量	6
7.2	ベースライン排出量	6
7.3	リーケージ排出量	6
7.4	温室効果ガス排出削減量	6
8	省エネルギー量	7

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	協同組合 いわき材加工センター
代表者氏名	鈴木 裕一
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	協同組合 いわき材加工センター 勿来本社工場
住所	福島県いわき市勿来町窪田道作 33 番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	東京電力株式会社

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

木材乾燥機における重油ボイラーから木屑焚きボイラーへの転換による排出削減事業

2.2 排出削減事業の目的

本事業は、木材乾燥用として使用している A 重油を燃料とするボイラーから、自社工場内で発生していた木屑類を燃料としたバイオマスボイラーを導入することにより、CO2 排出量の削減を図るとともに、廃棄物の有効活用を推進するものである。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

木屑等を燃料とするバイオマスボイラーを導入することにより、既設ボイラーの燃料である A 重油から、工場内で発生する木屑等のバイオマスを燃料として利用することにより化石燃料の燃焼に伴う CO2 の排出を削減する。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特になし

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2009年6月1日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2009年6月1日 ～ 2010年3月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

本方法論では採用していないため、なし。

4.2.1 活動量・原単位

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

自社製材工場から出る木屑・木片を燃料とし、木材乾燥用として設置したバイオマスボイラーが供給する熱・蒸気を使用する範囲とする。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある 場合、) 変更理由
HE_{Pj}	実施後ボイラーの生成熱の有効利用量	GJ/年	9,330	ボイラ給水量・ボイラ給水温度・缶蒸気圧・ブロー時間の計測	
ε_{BL}	ベースラインのボイラー効率	%	80.6	3機のカタログ値の平均より算出 (高位発熱量基準)	
β_{Pj}	事業実施後(木屑)ボイラーの年間稼働時間	時間/年	4,371	運転記録	
$CF_{A重油, BL}$	ベースライン燃料(A重油)の単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.01890	デフォルト値より計算	
$CF_{electricity}$	電力の炭素排出係数	t-C/kwh	0.0000915	デフォルト値	

6 モニタリング体制

6.2 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類	QA/QC 手順
活動量	
HE_{Pj}	<ul style="list-style-type: none"> ボイラ給水量・ブロー時間・ボイラ給水温度・缶蒸気圧は運転日誌にボイラー担当者が記録する実測値を事務担当者がチェックし、毎月これを元に生成熱の有効利用量を計算した結果と共に責任者の確認を受ける。 ブローについては、メーカーの運転マニュアルに沿った方法により指定時間実施し、ブロー時間を運転日誌に記録する。また、定期的に水質分析を行い、分析結果に計画段階で想定した水質分析との有意な差異がないことを確認する。
ε_{BL}	<ul style="list-style-type: none"> カタログ値を用いる。
β_{Pj}	<ul style="list-style-type: none"> 計画に基づく稼働を運転日誌により確認する。
排出係数	
$CF_{A \text{ 重油, BL}}$	<ul style="list-style-type: none"> 該当文献を確認し、採用している数値の確認を行う。
$CF_{\text{electricity}}$	<ul style="list-style-type: none"> 該当文献を確認し、採用している数値の確認を行う。

7 排出削減量の計算

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
76.0 [kW] 4,371 [h]	—	0.0000915 [tC/kWh]	111.5
EM _{Pj}			111

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
9,330 [GJ] 80.6 [%]	—	0.01890 [tC/GJ]	802.2
29.7 [kW] 4,371 [h]	—	0.0000915 [tC/kWh]	43.6
EM _{BL}			845

7.3 リークエージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EM_{BL}</i>	845
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EM_{Pj}</i>	111
リークエージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	734

8 省エネルギー量

原油換算 (kℓ)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)

(参考) 再生可能エネルギー利用量

原油換算 (実績)
240.7 [kℓ]